

# 「私と国際頭痛学会」



獨協医科大学 名誉教授  
平田幸一

日本頭痛学会は、それまでに**24年**間の歴史をもつ頭痛研究会を母体として**1997年**に設立されました。国際的にも第**12回**国際頭痛学会（IHC）を坂井文彦元代表理事が開催され、日本の頭痛医療の地位を確実なものにしました。結果として日本頭痛学会は国際頭痛学会の**Advisory Council**の一員として国際的にも日本の頭痛医療と研究の成果を発信しています。

近年、海外留学の勢いが衰えてきつつあることは、日本のすべての学問で嘆かれていることと思います。せめて、IHCだけでも出席して、発表内容のすべては解らないにしても、その雰囲気味わう、**Face to Face**で海外の頭痛研究者や医療者と知り合い語り合うことの重要性、素晴らしさを日本



頭痛学会員に体験してもらいたいと思っているのは筆者だけではないと思います。自分は**2003年**のイタリア・ローマから次回のブラジル・サンパウロ（予定）まで皆出席ですが、**2005年**の京都でIHCの素晴らしさ（海外の著名研究者と見た花火の美しさは一生忘れません）はもちろんのこと、**2021年**コロナ禍でのオンライン開催（IHC＋欧州頭痛連盟の共同開催）を含めて、すべてが楽しく、勉強になりかつ大事な思い出になりました。さらに海外との交流だけでなく、国内の研究者や、自分の周りの人々国外で一緒になることでその絆をより強固にすることができたと自負しています。写真は**2015年**スペイン・バレンシアのIHCにて、シロッコ（solano）の吹くなかで、下畑敬子先生、当時の獨協医科大学脳神経内科医局員と自分です。楽しかった！

Let's all participate in the IHC !